

平成25年度 ガールスカウト シニア部門 活動報告

月	テーマ	実施日	活動内容	場所
4	春うらら	14日(日)	入団式	神宮司庁
		20日(土)・21日(日)	講習A・B	育成会館
		29日(月)	基本訓練とギャザリング準備	育成会館
5	目に青葉	11日(土)～12日(日)	三重県連盟ギャザリング	津市青少年野外活動センター
6	衣替え	9日(日)	基本訓練と野外料理	育成会館
		22日(土)～23日(日)	一泊野営	育成会館
7	連盟キャンプ	7日(日)	禊・潮汲み	二見町 神前浜
		20日(土)～22日(月)	三重県連盟キャンプ	津市青少年野外活動センター
8	お白石持	4日(日)	キャンプの後片付けと台湾・ギャザリング事前研修	育成会館
		5日(月)	台湾事前研修	育成会館
		14日(水)～20日(火)	台湾親善訪問	台湾
		16日(金)～18日(日)	北陸東海ギャザリング	福井県
		26日(月)	キャンプ・台湾・地区ギャザリングの事後研修	育成会館
9	いわし雲	23日(月)	パッジブックと団活動報告会に向けて	育成会館
10	常若	13日(日)	伊勢まつりGSブース出展	しんみち駐車場エリア
		15日(火)	初穂曳	外宮
		28日(月)	団活動報告会に向けて	伊勢市民活動センター
11	ふれあい	11日(月)	団活動報告会に向けて	伊勢市民活動センター
		17日(日)	団活動報告会に向けて	育成会館
12	ハンド in ハンド	7日(土)	お伊勢さんマラソン ウォークの部 お手伝い	外宮正面前
		8日(日)	BS・GS合同もちつき・ユニセフ募金	育成会館・外宮前・伊勢市駅前
		15日(日)	団活動報告会 テーマ「たすけあい」	育成会館
1	初もうで	2日(木)・3日(金)	昆布茶接待	外宮北御門
		6日(月)	総理大臣お出迎え	神宮司庁
		19日(日)	BS・GS合同参拝	外宮
2	梅のつぼみ	9日(日)	活動報告会に向けて	育成会館
		22日(土)	三重県連盟活動報告会とワールドシンキングデー	津市民活動センター
3	桃の節句	16日(日)	お別れ遠足	石清水八幡宮・京都水族館
		30日(日)	フライアップ式	育成会館

平成25年度 ガールスカウト ジュニア部門 活動報告

月	テーマ	実施日	活動内容	場所
4	春うらら	14日(日)	入団式	神宮司庁
		29日(月)	基本訓練	育成会館
5	目に青葉	6日(月)	基本訓練	育成会館
		11日(土)～12日(日)	三重県連盟ギャザリング	津市青少年野外活動センター
		12日(日)	田植え	ハートプラザみその近くの水田
6	衣替え	9日(日)	野外訓練	育成会館
		22日(土)～23日(日)	一泊野営	育成会館
7	連盟キャンプ	7日(日)	禊・潮汲み	二見町 神前浜
		20日(土)～22日(月)	三重県連盟キャンプ	津市青少年野外活動センター
8	お白石持	1日(木)	外宮さんゆかたで千人お参り 「福野 夜高行燈」参加	外宮～外宮参道
		11日(日)	キャンプの反省・バッジに挑戦	伊勢図書館
9	いわし雲	8日(日)	稲刈り	ハートプラザみその近くの水田
		28日(土)	キャンプの片付け	育成会館
10	常若	13日(日)	伊勢まつりGSブース出展	しんみち駐車場エリア
		15日(火)	初穂曳	外宮
		20日(日)	バッジに挑戦	いせトピア
11	ふれあい	23日(土)	地球ひろば見学	JICA(名古屋)
12	ハンド in ハンド	8日(日)	BS・GS合同もちつき・ユニセフ募金	育成会館・外宮前・伊勢市駅前
		15日(日)	団活動報告会 テーマ「たすけあい」	育成会館
1	初もうで	2日(木)・3日(金)	昆布茶接待	外宮北御門
		6日(月)	総理大臣お出迎え	神宮司庁
		19日(日)	BS・GS合同参拝	外宮
2	梅のつぼみ	1日(土)～2日(日)	スキー	ホワイトピア高鷲スキー場
		22日(土)	三重県連盟活動報告会とワールドシンキングデー	津市民活動センター
3	桃の節句	16日(日)	お別れ遠足	石清水八幡宮・京都水族館
		30日(日)	フライアップ式	育成会館

平成25年度 ガールスカウト ブラウニー部門 活動報告

月	テーマ	実施日	活動内容	場所
4	春うらら	14日(日)	入団式	神宮司庁
		28日(日)	基本訓練	育成会館
5	目に青葉	12日(日)	田植え	ハートプラザみその近くの水田
		26日(日)	ガールスカウトブラウニーふれあいの日	育成会館
6	衣替え	15日(土)～16日(日)	一泊舎営	育成会館
		30日(日)	バッジに挑戦	育成会館
7	連盟キャンプ	14日(日)	キャンプの準備(荷物点検)	育成会館
		20日(土)～22日(月)	三重県連盟キャンプ	津市青少年野外活動センター
8	お白石持	1日(木)	外宮さんゆかたで千人お参り 「福野 夜高行燈」参加	外宮～外宮参道
		25日(日)	キャンプの反省と国旗のある風景画作成	いせトピア
9	いわし雲	8日(日)	稲刈り	ハートプラザみその近くの水田
10	常若	13日(日)	伊勢まつりGSブース出展 見学	しんみち駐車場エリア
		15日(日)	初穂曳	外宮
		20日(日)	基本訓練・バッジブック	いせトピア
11	ふれあい	10日(日)	ハイキング	二見町 音無山周辺
		30日(日)	バッジに挑戦	いせトピア
12	ハンド in ハンド	8日(日)	BS・GS合同もちつき・ユニセフ募金	育成会館・外宮前・伊勢市駅前
		15日(日)	団活動報告会 テーマ「たすけあい」	育成会館
1	初もうで	2日(木)・3日(金)	昆布茶接待	外宮北御門
		6日(月)	総理大臣お出迎え	神宮司庁
		19日(日)	BS・GS合同参拝	外宮
2	梅のつぼみ	16日(日)	基本訓練・1年のまとめ	育成会館
		22日(土)	三重県連盟活動報告会とワールド シンキングデー	津市民活動センター
3	桃の節句	16日(日)	お別れ遠足	石清水八幡宮・京都水族館
		30日(日)	フライアップ式	育成会館

平成25年度 ガールスカウト テンダーフット部門 活動報告

月	テーマ	実施日	活動内容	場所
4	春うらら	12日(金)	じゃがいも植え付け	大世古
		14日(日)	入団式・基本訓練	神宮司庁
5	目に青葉	12日(日)	田植え・ガールスカウトふれあいの日	ハートプラザみその近くの水田
6	衣替え	15日(土)～16日(日)	おとまり会	育成会館
7	連盟キャンプ	6日(土)	シッタボン作成とじゃがいも収穫	大世古
		21日(日)～22日(月)	三重県連盟キャンプ	津市青少年野外活動センター
8	お白石持	1日(木)	外宮さんゆかたで千人お参り 「福野 夜高行燈」参加	外宮～外宮参道
9	いわし雲	8日(日)	稲刈り・ぶどう狩り体験・国旗のある風景画作成	ハートプラザみその近くの水田・御菌町 大西果樹園
10	常若(とこわか)	13日(日)	伊勢まつりGSブース見学	しんみち駐車場エリア
		15日(火)	初穂曳	外宮
11	ふれあい	10日(日)	伊勢市天然記念物 蓮台寺柿収穫風景を訪ねて・ハイキング	勢田町・御木本道路
12	ハンド in ハンド	8日(日)	BS・GS合同もちつき	育成会館
		15日(日)	団活動報告会 テーマ「たすけあい」	育成会館
1	初もうで	2日(木)・3日(金)	昆布茶接待	外宮北御門
		19日(日)	BS・GS合同参拝	外宮
2	梅のつぼみ	8日(土)	はじめてのお茶	谷先生宅
		22日(土)	三重県連盟活動報告会とワールドシンキングデー	津市民活動センター
3	桃の節句	1日(土)	桃の節句お茶会	谷先生宅
		16日(日)	お別れ遠足	石清水八幡宮・京都水族館
		30日(日)	フライアップ式	育成会館

※その他 …… 年間通じて稲とじゃがいもの観察

平成25年度 文化部4館の入館状況について

①徴古館農業館

□ = 1日平均

		平成25年度		前年度		比較増減
入館者数計(人)		(314日開館)	53,014 【169】	(314日開館)	31,779 【101】	21,235
内 訳	常設展	(98日間)	12,966 【132】	(82日間)	7,107 【87】	
	特別展 企画展	(216日間)	40,048 【185】	(232日間)	24,672 【106】	
	有 料		46,719 88%		25,216 79%	21,503
	無 料		6,295 12%		6,563 21%	△ 268
収入計 (円)			15,563,960		8,535,435	7,028,525
内 訳	観覧料		14,522,910		7,907,335	6,615,575
	販売品料		1,041,050		628,100	412,950

* 平成23年度総入館者数 39,181人

《特集展示》

平成の奉納刀剣展 [平成25年4月1日～6月2日 55日間]

・入館者 7,633 人 【139】

※3月20日～6月2日 66日間 ・入館者 9,034人 【137】

《第6 2回神宮式年遷宮展》

御白石 [7月9日～9月8日 60日間]

・入館者 9,312 人 【155】

《第6 2回神宮式年遷宮展Ⅰ》

おおみやうつし [10月7日～平成26年3月31日 156日間]

・入館者 30,736 人 【197】 ※会期は8月24日まで

②美術館

□ = 1 日平均

		平成25年度	前年度	比較増減
入館者数計(人)		(306日開館) 25,516 【83】	(309日開館) 18,513 【60】	7,003
内 訳	常設展	(248日間) 16,481 【66】	(247日間) 11,685 【47】	
	特別展 企画展	(58日間) 9,035 【156】	(62日間) 6,828 【110】	
	有 料	19,548 77%	12,680 68%	6,868
	無 料	5,968 23%	5,833 32%	135
収入計 (円)		6,424,990	4,566,165	1,858,825
内 訳	観覧料	5,649,410	4,138,025	1,511,385
	販売品料	775,580	428,140	347,440

* 平成23年度総入館者数 21,994人

《神宮美術館開館20周年記念特別展》

日本の原風景 [10月7日～11月4日 29日間]

- ・入館者 4,361 人 【150】
- ・図録発行
- ・記念講演会 10月26日 日本美術院理事・愛知県立芸術大学学長
松村公嗣氏 聴講125名

《特別展》

静一歌会始御題によせてー [平成26年2月19日～3月23日 29日間]

- ・入館者 4,674 人 【161】
- ・図録発行
- ・記念講演会 3月8日 日本藝術院会員 山本 貞氏 聴講125名

※倉田山3館入館者数

	平成25年度	前年度	比較増減
入館者数計(人)	78,530	50,292	28,238

- 無休期間 : 御白石持行期間中無休期間 7月23日～9月8日 48日間
 : 遷宮特別無休期間 10月7日～11月24日 48日間
 休館期間 : 遷宮特別態勢休館期間 9月24日～10月6日 13日間

③せんぐう館

【】 = 1 日平均

		平成25年度	前年度	比較増減
入館者数計(人)		(352日開館) 867,435 【2,464】	(347日開館) 352,308 【1,015】	515,127
内 訳	有 料	858,800 99%	340,733 97%	518,067
	無 料 [招待券]	8,635 1%	[招待券] 11,575 3%	△ 2,940
収入額 (円)		216,452,500	86,214,700	130,237,800

* 平成24年4月7日開館

《企画活動》

企画「御白石持行事」 [4月24日～7月22日 88日間]

企画「神明造」 [7月24日～9月23日 61日間]

企画 夜の特別開館

「来た!見た!わかった!伊勢神宮」 [8月10・11日 2日間]

企画「参宮みやげ」 [9月25日～12月23日 90日間]

企画「～皆おしあひぬ、御遷宮～」 [12月25日～平成26年3月24日 88日間]

※各週末に講座等開催

※通年企画として「館内ガイド(1日6回)」、「遷宮諸祭の奉拝」「三節祭の奉拝」を実施

無休期間 : 遷宮特別無休期間 9月25日～12月23日 90日間

平成 25 年度 神宮徴古館事業報告

○企画活動

1. 特集展示「平成の奉納刀剣展」【3月20日（水）～6月2日（日）】

【会場】 神宮徴古館新館Ⅰ・Ⅱ室

【事業概要】 神宮徴古館では平成17年から21年の5年間「神宮の刀」と題して神宮に奉納された刀剣類を展示し、文化財としての価値とともに刀剣の奉納に込められた「心」のあり方を明らかにしてきました。この展示を契機に、近年多くの篤志家より刀剣が神宮に奉納されました。本展覧会では新たに奉納された刀剣類を厳選してご覧いただく機会とし、大御神に寄せられる崇敬の誠を明らかにする文化財として公開しました。

【展示資料】

	資料名	(国名・作者)	時代
1	太刀 銘備前國助平	備前	平安時代末期
2	太刀 銘 眞長	備前	鎌倉時代後期
3	太刀 無銘 (伝 龍門)	大和	鎌倉時代後期
4	刀 大磨上げ無銘 (伝 二代孫六兼元)	美濃	室町時代中期
5	刀 無銘 (伝 一文字派)	備前	鎌倉時代後期
6	短刀 銘正宗	相模	鎌倉時代後期
7	刀 無銘 (月山)	出羽	室町時代
8	刀 銘 筑前守信秀	越後	幕末
9	刀 銘 播磨大掾重高	越前	江戸時代前期
10	脇差 備州長船宗元 貞治四年九月日	備前	南北朝時代
11	脇差 銘 越中守正俊	大坂	江戸時代前期
12	短刀 備州長船祐定	備前	戦国時代
13	短刀 銘 備州長船則光	備前	室町時代
14	刀	月山貞勝	現代 (大正)
15	剣	新保基平	現代 (平成)

16	直刀	久保善博	現代（平成）
17	桜花文透鏤 銘 越前高来	越前	江戸時代前期
18	刀装具小柄 加賀（無銘）	加賀	江戸時代中期

特別出品

19	刀 銘 三善長道（付 攘夷祈願文） ※会期前半	会津	江戸時代前期
20	太刀 銘 有國 ※会期後半	山城	鎌倉時代後期

1. 第 62 回神宮式年遷宮展「御白石」【7 月 9 日（火）～9 月 8 日（日）】

【会 場】 神宮徴古館新館Ⅰ・Ⅱ室

【事業概要】 「遷御の儀」を迎える新宮の御敷地に旧神領民を始めとする伊勢市民と全国崇敬者からなる特別神領民が白色の敷石を奉獻する御白石持行事が盛大に行われました。神宮徴古館では、旧神領に住む人々が主体的に奉仕する御白石持行事について、関連資料や写真パネルなどを多用した企画展示を行い、式年遷宮の完遂と遷宮行事の次への継承について理解を深める機会としました。

【展示資料】

	資料名	収蔵年代	所蔵先
1	御木曳車模型	平成	神宮徴古館蔵
2	特別神領民法被	平成	神宮徴古館蔵
3	宇治橋渡始式渡女装束	平成	神宮徴古館蔵
4	『祝お白石持』幟	平成	神宮徴古館蔵
5	『祝御遷宮』幟	平成	神宮徴古館蔵
6	第五十八回神宮式年遷宮白石奉曳歌	昭和	神宮徴古館蔵
7	外宮領 采	平成	神宮徴古館蔵
8	内宮領 采	昭和	神宮徴古館蔵
9	両宮 采	昭和	神宮徴古館蔵

10	白石・清石断面標本	平成	神宮徴古館蔵
11	外宮内宮領法被（計 45 枚）	平成	神宮徴古館蔵
12	足利十二代之肖像	江戸	神宮文庫蔵
13	明治四十二年皇大神宮遷宮附属諸祭行事之図	明治	神宮文庫蔵

今上天皇御製写真入りパネル含め計 12 枚

2. 第 62 回神宮式年遷宮展「おおみやうつし」

【10 月 7 日（月）～平成 26 年 8 月 24 日（日）】

【会 場】 神宮徴古館新館Ⅰ・Ⅱ室 本館Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ室

【事業概要】 第 62 回神宮式年遷宮の御斎行を記念し、遷宮諸祭奉仕者が着装する装束や実際に使用された祭器具等の関連資料を展示し、写真パネルなどを多数使用した企画展示を行い、「万古不易の嘉例」と称される式年遷宮についてより理解を深める契機としました。

【展示資料】

	資料名	収蔵年代	所蔵先
1	昭和四年度御遷宮絵巻（全 13 巻）	昭和	神宮徴古館蔵
2	第 58 回神宮式年遷宮供用御物 朱漆塗唐櫃	昭和	神宮徴古館蔵
3	池田厚子神宮祭主遷宮祭御装束	平成	神宮徴古館蔵
4	久邇邦昭大宮司遷宮祭御装束	平成	神宮徴古館蔵
5	平成五年度神宮式年遷宮装束壺式	平成	神宮徴古館蔵
6	後鎮祭物忌装束（内宮）	平成	神宮徴古館蔵
7	後鎮祭物忌装束（外宮）	平成	神宮徴古館蔵
8	宇治橋渡始式 渡女装束	平成	神宮徴古館蔵
9	小工装束	平成	神宮徴古館蔵
10	忌鎌・忌鍬（鎮地祭使用）	平成	調度部所蔵
11	饗膳・梶机（山口祭使用）	平成	神宮徴古館蔵

12	伏籠（木本祭使用）	平成	調度部所蔵
13	短柱・木槌・鑿・筆・硯（御形祭使用）	平成	調度部蔵
14	忌斧（御杣始祭使用）	平成	宮林部蔵
15	手斧・墨壺（木造始祭使用）	平成	調度部蔵
16	布綱・博士木（上棟祭使用）	平成	調度部蔵
17	散餅の桶（上棟祭使用）	平成	調度部蔵
18	白杖（杵築祭使用）	平成	神宮徴古館蔵
19	御白石運搬用竹籠	昭和	神宮徴古館蔵
20	斎服・絹袴	平成	神宮徴古館蔵
21	トランシット	明治	神宮徴古館蔵
22	百人一首	昭和	神宮徴古館蔵
23	龍笛 銘・多古丸	昭和	神宮徴古館蔵
24	笙	昭和	神宮徴古館蔵
25	源頼朝肖像	平成	神宮文庫蔵
26	延喜式巻四	明治	神宮文庫蔵

遷宮諸祭写真入りパネル含め計 30 枚

- 4月5日 サントリー美術館「『もののあはれ』と日本の美」に重要文化財《紙本著色 伊勢新名所絵歌合》一卷貸出（6月20日返却）。
- 4月10日 学習院大学桜友会野村苑子氏来館。
- 4月11日 遷宮記録絵画作家 水野一昭氏来館。『るるぶお伊勢まいり』徴古館農業館取材。
- 4月13日 特集展示「平成の奉納刀剣展」前期終了（3月20日～）。山梨県立美術館「富士の国やまなし国文祭記念事業『望月春江とその時代』」に国史絵画《本居宣長》貸出（6月17日返却）。
- 4月15日 特集展示「平成の奉納刀剣展」後期（～6月2日）。iTV「日本の暮らしのぞき箱」《旧慶光院客殿》撮影。
- 4月18日 作家 綿矢りさ氏来館。
- 4月20日 日本航空グループ誌『A G O R A』徴古館農業館取材。
- 4月21日 NHK「歴史秘話ヒストリア」徴古館取材。
- 4月22日 三重テレビ「伊勢神宮心のふるさと」徴古館資料撮影。
- 4月27日 平成25年度第1回文化部協議委員会（神宮司庁第一会議室）。
- 4月28日 国指定史跡林崎文庫一般公開（～30日）。
- 5月1日 写真家 宮澤正明氏来館。
- 5月5日 倭姫宮御杖代奉賛会主催「倭姫宮春の大祭」参列者342名来館（無料観覧）。
- 5月8日 読売新聞大阪本社主催「傘寿記念上村淳之展」より日本画《大和鶏》返却（3月1日貸出）。
- 5月9日 遷宮記録絵画作家 水谷桑丘氏、作品制作打合わせのため来館。
- 5月10日 産経新聞社 月刊『正論』徴古館農業館取材。
- 5月15日 パラミタミュージアム「富士山と桜展～雪月花の心～」より横山大観 日本画《國破山河在》並びに福田平八郎 日本画《さくら》返却（3月30日貸出）。
- 5月18日 （公財）合気会道守植芝守央氏来館。
- 5月19日 倭姫宮御杖代奉賛会平成25年度定期総会（新館2階会議室）。
- 5月21日 日本航空グループ誌『A G O R A』徴古館農業館取材。
- 5月23日 三重テレビ「式年遷宮記念特別企画『お伊勢さん』」徴古館外観撮影。
- 5月25日 刀剣献納者 豊田さち氏来館。
- 5月31日 日本藝術院会員 中井貞次氏来館。
- 6月2日 特集展示「平成の奉納刀剣展」終了（3月20日～、入館者9,034名）。
- 6月4日 式年遷宮奉賛美術品献納者 故吉田文之氏令息 吉田秋比古氏来館（・8月17日）。
- 6月6日 奈良県立美術館「特別展正倉院宝物近代奈良の工芸～模造と創作140年の歩み～」に北村大通《瑞祥図蒔絵平脱文庫》・同《瑞祥図蒔絵平脱硯箱》貸出（7月27日返却）。
- 6月14日 葛飾区郷土と天文の博物館 学芸員 堀充宏氏、農業館資料《武蔵之國漬菜之図》（二）資料調査（特別展「肥やしの底チカラ」に7月23日貸出、9月20日返却）。九州国立博物館「特別展大ベトナム展」より重要文化財《角屋家貿易関係資料「アジア航海図」》始5点返却（3月24日貸出）。

- 6月18日 『増補大神宮叢書』第23巻「神宮近世奉賽拾要一前篇」編纂のため《御影参宮三宝荒神》調査。柙出版『ディスカバージャパン』「伊勢神宮・出雲大社の秘密」徴古館農業館取材。
- 6月26日 三重県知事 鈴木英敬氏来館。東京国立博物館「国宝 大神社展」より三重県指定有形文化財《伊勢両宮曼荼羅図》返却（3月22日貸出）。
- 7月4日 日本藝術院会員 武腰敏昭氏来館。
- 7月9日 第62回神宮式年遷宮展「御白石」開催（～9月8日、入館者9,312名）、三重テレビ・伊勢志摩ホームニュース・伊勢文化舎取材（・8月20日毎日新聞社）。(株)中川政七商店 代表取締役 中川淳氏来館。
- 7月10日 高松市美術館 学芸員 川西弘一氏、磯井如眞《菟醬香盆「梅の図」》調査。
- 7月22日 三重テレビ「式年遷宮記念特別企画『お伊勢さん』」徴古館取材。
- 7月25日 平成25年度第2回文化部協議委員会（神宮司庁第一会議室）。
- 7月29日 遷宮記録絵画作家 水野一昭氏、作品制作のため「御白石持行事」取材（・8月9日・11日）。
- 7月30日 佐倉市立美術館館長 前川公秀氏・神戸市立小磯記念美術館館長 島田康寛氏、浅井忠《少年像》・戦争素描4点・「戦争図」調査。夏休み親子教室「藍染めでオリジナルハンカチを作ろう！」皇學館大学神道博物館と共同開催（・8月7日 皇學館大学）。
- 8月1日 三重県立博物館館長 布谷知夫氏来館。女優 鶴田真由氏来館。
- 8月3日 皇學館大学学生15名、博物館実習（～5日）。
- 8月6日 B S「とことん紀行～三重・伊勢志摩編～」・《倭姫命銅像》・《慶光院清順之像》並びに重要文化財《旧慶光院客殿》撮影。
- 8月9日 遷宮記録絵画作家 水谷桑丘氏、作品制作のため「御白石持行事」取材（・11日）。
- 8月12日 三重県立博物館「新博物館整備推進プロジェクトチーム」、展示品制作のため重要文化財《角屋家貿易関係資料「御朱印旗」》始14点・重要文化財《旧林崎文庫》・《旧葉山大夫邸門》等調査並びに撮影（・13日・14日・15日・29日）。「平成25年度神宮実習」実習生31名来館（・19日36名・27日31名）。
- 8月16日 式年遷宮奉賛美術品献納者 故吉田文之氏令息 吉田秋比古氏来館。
- 8月17日 『毎日新聞』第62回神宮式年遷宮展「御白石」取材。
- 8月21日 N H K「金とく“20年に一度”伊勢神宮・遷宮大百科」徴古館取材、東京大学教授 ロバート・キャンベル氏・皇學館大学教授 櫻井治男氏来館（・23日 高取稚成《昭和四年度御遷宮絵巻》第7巻「遷御」撮影）。
- 8月22日 「京都府神社庁階位検定講習会」受講者42名来館。
- 8月23日 遊部工芸(株)代表取締役 遊部尋志氏来館。
- 8月28日 日本画家 三枝美津子氏来館。
- 9月6日 國學院大學文学部教授 新谷尚紀氏来館。
- 9月11日 三重テレビ「とってもワクドキ！」小堀館長にインタビュー並びに徴古館取材。
- 9月12日 遷宮記録絵画作家 水谷桑丘・水野一昭両氏、作品制作打合わせのため来館。
- 9月24日 遷宮特別態勢につき休館（～10月7日）。
- 9月25日 東海テレビ 徴古館取材。
- 10月7日 第62回神宮式年遷宮展「おおみやうつし」開催（～平成26年8月24日）。

- 10月14日 神宮祭主 池田厚子様ご来館。
- 10月15日 日本テレビ「メレンゲの気持ち」、第62回神宮式年遷宮展「おおみやうつし」取材（・17日 伊勢志摩経済新聞・伊勢文化舎、21日（株）交通新聞社『ジパング倶楽部』）。
- 10月17日 神嘗祭奉祝につき観覧料無料（入館者143名）。
- 10月20日 美術館特別展「日本の原風景」作品出品作家 萩原いづみ氏来館。
- 10月27日 NHKスペシャル「伊勢神宮～アマテラスの謎～」、高取稚成《昭和四年度御遷宮絵巻》第7巻「遷御」撮影。
- 10月28日 美術館特別展「日本の原風景」作品出品作家 黒澤信男氏来館。写真家 三好和義氏来館。
- 10月29日 法学博士 所功氏来館。
- 11月1日 月兎舎『NAGI』徴古館農業館取材。
- 11月4日 日展評議員 三輪晃久氏 日本画《天地》・《夏気配》献納（平成26年3月22日感謝状贈呈）、洋画家 黒澤信男氏 洋画《雪晴れの朝（飛驒の里）》献納（平成26年3月20日感謝状贈呈）、彫金家 浅井盛征氏 金工《重ね金象嵌香炉「朝風ぎ」》献納（全点 美術館特別展「日本の原風景」への出品作）。
- 11月5日 倭姫宮御杖代奉賛会主催「倭姫宮秋の大祭」参列者238名来館（無料観覧）。
- 11月6日 伊勢神宮崇敬会主催「新穀感謝祭」各県神社庁来館（～12月12日 総数1,618名）。重要文化財《旧慶光院客殿》公開（～8日 来場者378名）。
- 11月9日 神社関係出身有識者懇談会52名来館。
- 11月11日 あとりゑすぎうらに「第59回式年遷宮奉賛美術品」和田英作 洋画《麝香撫子の花》・小絲源太郎 洋画《雪後》・寺内萬治郎 洋画《黒い服》・須田国太郎 洋画《こうづる》・中山巍 洋画《風景》の修理を委託（平成26年3月14日完了）。
- 11月20日 九州国立博物館「国宝大神社展」に三重県指定文化財《紙本着色 伊勢両宮曼荼羅図》貸出（平成26年3月15日返却）。藤原表具店に磯部百鱗《天岩戸開之図》・有馬百鞭《伊勢論語守武像》・《荒木田久老和歌》・《荒木田久守和歌》の修理を依頼。
- 11月25日 洋画家 故平賀亀祐氏遺族 平賀菊江・安利両氏、平賀亀祐《静物 果物》・《浜島風景 海女小屋》並びにルシアン・シモン 洋画《人物画》献納につき来館。
- 12月1日 中日写真協会主催「ミス伊勢志摩を写す会」開催（徴古館前苑地）。
- 12月9日 テレビ東京「137億年の物語」取材。
- 12月12日 水谷桑丘氏 日本画 遷宮記録絵画《皇大神宮上棟祭》献納。
- 12月14日 NHK「ほんとイブニングみえ」、第62回神宮式年遷宮展「おおみやうつし」取材。
- 1月3日 草津市21世紀文化芸術推進協議会 副会長 草津美術協会 事務局長 山元昭彦氏来館。
- 1月7日 岐阜県神社庁瑞浪支部510名来館。
- 1月9日 写真家 稲田美織氏来館。NHN文化センター豊橋教室37名来館。
- 1月17日 平野神社宮司 尾崎保博氏来館。
- 1月21日 （公社）日本河川協会理事 青山俊樹氏・皇學館大学 理事 現代社会学部長 宮川泰夫氏来館。
- 1月22日 「第60回文化財防火デー」に伴い伊勢市消防本部による立入検査（徴古館・祭主職舎）。
- 1月23日 「倭姫宮修景計画」に伴う実査。

1月24日 神社本庁総合研究所主催「第76回正階基礎研修（甲）」受講者28名来館。
 1月27日 アイティービー、第62回神宮式年遷宮展「おおみやうつし」取材。
 1月29日 伊勢市教育委員会、神宮徴古館保管 重要文化財調査。
 2月1日 「第59回式年遷宮奉賛美術品」日本画《早春の湖畔》献納者 小野竹喬遺族 小野聡氏ご夫妻来館。
 2月4日 新潟県立近代美術館「生誕120年岩田正巳展 新興大和絵、その清澄なる世界」に国史絵画《織田信長の勤皇》貸出。
 2月6日 神社本庁総合研究所主催「平成25年度神職養成機関普通課程生徒合同実習Ⅰ」受講者34名来館。
 2月7日 宮内庁侍従 下均氏来館。
 2月13日 高松市美術館開館25周年記念「没後50年 磯井如真展」に漆芸《蒟醬香盆「梅の図」》貸出。
 2月14日 降雪のため午後1時50分閉館。
 2月15日 積雪のため農業館臨時休館。静岡理工科大学教授 志村史夫氏来館。
 2月19日 宮内庁前掌典長 手塚英臣氏来館。美術館特別展「静」作品出品作家 水谷桑丘氏来館。
 2月21日 シンガーソングライター さだまさし氏来館。
 2月26日 比治山神社宮司 大巳和晴氏来館。
 2月27日 重要無形文化財「蒟醬」保持者 山下義人氏来館。
 3月9日 日本藝術院会員 井茂圭洞氏来館。四柱神社宮司 宮坂信廣氏来館（・26日）。
 3月16日 日本藝術院会員 山崎隆夫氏来館。
 3月18日 遷宮記録絵画作家 水野一昭氏来館。美術館特別展「静」作品出品作家 栗根仁志氏来館。
 3月19日 NHK「ほっとイブニングみえ」《明治二年伊勢行幸絵巻》撮影。
 3月20日 明治神宮権宮司 網谷道弘氏来館。神道青年近畿地区連絡協議会40名来館。
 3月21日 重要無形文化財「白磁」保持者 前田昭博氏来館。
 3月23日 書家 紫舟氏来館。
 3月28日 株式会社百五銀行 代表取締役 頭取 上田豪氏来館。
 3月31日 三重県指定文化財《紙本着色 伊勢両宮曼荼羅図》複製品制作。

平成 25 年度 神宮美術館事業報告

○企画活動

1. 特集「平成 24 年度 神宮奉納美術品」【7 月 9 日（火）～8 月 25 日（日）】

【会 場】 神宮美術館Ⅱ室

【事業概要】 神宮美術館には文化勲章受章者をはじめ当代を代表する芸術家の方々から数々の名品が奉納されており、その作品を平成 7 年より特集として公開してきました。この特集展示では、平成 24 年度中に神宮へ奉納された美術・工芸作品を展示しました。

【展示資料】

		作 品 名	作 者		献 納 日	寸 法 (cm)
工 芸	1	神代杉木画平卓	重要無形文化財保持者	中川清司	平成 24 年 8 月 15 日	縦 33.7×横 42.3×高 5.7
	2	平割摺漆盛籃 「喜久之香」	重要無形文化財保持者	勝城蒼鳳	平成 24 年 11 月 5 日	縦 18.0×横 44.0
	3	沈金箱「里山」	重要無形文化財保持者	前 史雄	平成 24 年 11 月 5 日	縦 16.0×横 27.5×高 14.0
	4	紅牙撥鏤尺 (正倉院宝物復元模造)	重要無形文化財保持者	吉田文之	平成 24 年 11 月 13 日	長 30.7×幅 3.5×厚 0.9
	5	紅牙撥鏤尺 (正倉院宝物復元模造)	重要無形文化財保持者	吉田文之	平成 24 年 11 月 13 日	長 29.7×幅 2.5×厚 0.7
	6	緑牙撥鏤尺 (正倉院宝物復元模造)	重要無形文化財保持者	吉田文之	平成 24 年 11 月 13 日	長 29.8×幅 2.3×厚 0.8
	7	紫牙撥鏤簪「両極圈」	重要無形文化財保持者	吉田文之	平成 24 年 11 月 13 日	長 15.0×幅 4.0×厚 0.8
	8	紫牙撥鏤簪「遙」	重要無形文化財保持者	吉田文之	平成 24 年 11 月 13 日	長 16.0×幅 3.9×厚 0.4
	9	象牙撥鏤筭 (正倉院文様)	重要無形文化財保持者	吉田文之	平成 24 年 11 月 13 日	長 18.2
	10	撥鏤棋子 (碁石 2 : 紅、紺)	重要無形文化財保持者	吉田文之	平成 24 年 11 月 13 日	径 1.6 (紅、紺)
	11	撥鏤ペンダント (六角中ばかし、18K)	重要無形文化財保持者	吉田文之	平成 24 年 11 月 13 日	縦 3.5×横 3.0×厚 0.3
	12	撥鏤ブローチ (六角花鳥文)	重要無形文化財保持者	吉田文之	平成 24 年 11 月 13 日	縦 4.4×横 3.8×厚 0.5
	13	撥鏤ブローチ (天の川白鳥)	重要無形文化財保持者	吉田文之	平成 24 年 11 月 13 日	縦 2.5×横 7.0 (湾曲あり)×厚 0.3
	14	撥鏤ブローチ (宇宙土星)	重要無形文化財保持者	吉田文之	平成 24 年 11 月 13 日	縦 2.0×横 6.0 (湾曲あり)×厚 0.3
	15	撥鏤帯留 (ばかし、緑)	重要無形文化財保持者	吉田文之	平成 24 年 11 月 13 日	縦 2.6×横 5.4×厚 0.6

工 芸	16	金銀平脱文壁飾 (正倉院文様孔雀)	重要無形文化 財保持者	吉田文之	平成 24 年 11 月 13 日	(本体)縦 13.5 ×横 13.5 (額寸)縦 27.8 ×横 27.8×厚 2.5
--------	----	----------------------	----------------	------	----------------------	---

2. 神宮美術館 開館 20 周年記念特別展 「日本の原風景」

【10 月 7 日（月）～平成 25 年 11 月 4 日（月）】

【会 場】 神宮美術館 I・II

【事業概要】 平成 5 年の第 61 回神宮式年遷宮を記念して創設された神宮美術館は、平成 25 年に 20 周年を迎えました。この特別展では「日本の原風景」をテーマとして、神やふるさとの風景など、環境と人々の営みが描かれた 38 点の近現代の美術作品を展示しました。

【展示資料】

		作 品 名	作 者	制作年	寸 法 (cm)	所蔵先
日 本 画	1	橘媛投身之図	大浦玉陽	不 詳	140.5×41.5	走水神社蔵
洋 画	2	「黄泉比良坂」古事 記より	小灘一紀	平成 22 年	195.0×162.0	作者蔵
日 本 画	3	風雲風神	手塚雄二	平成 12 年	各 174.0×348.0	今井美術館蔵
	4	木花開耶姫	案本一洋	大正 4・5 年	121.3×71.0	京都市立下鴨小学校蔵
	5	新秋	小野竹喬	昭和 23 年	115.0×92.0	笠岡市立竹喬美術館蔵
	6	峠路	小茂田青樹	大正 5 年	142.5×50.4	山種美術館蔵
	7	山の郵便局	加藤栄三	昭和 6 年	42.7×59.5	加藤栄三・東一記念美術館蔵
	8	麦秋	加藤東一	昭和 16 年	88.0×108.5	加藤栄三・東一記念美術館蔵
	9	高嶺残雪	川合玉堂	昭和 28 年	47.0×57.0	神宮徴古館蔵
	10	麦秋（落合村）	川崎小虎	昭和 23 年	87.0×108.0	山梨県立美術館蔵
	11	道	北野治男	平成 16 年	220.0×175.0	

日本画	12	雨期	近藤浩一路	昭和 26 年	54.3×61.0	山梨県立美術館蔵
	13	野々宮参道	近藤浩一路	昭和 26 年	46.2×44.8	山梨県立美術館蔵
	14	夕陽の里	鈴木竹柏	平成 16 年	220.0×130.0	横須賀美術館蔵
	15	御田植祭り	高橋天山	平成 22 年	180.0×180.0	神宮徴古館蔵
	16	春秋	高山辰雄		87.5×116.0	神宮美術館蔵
	17	山の道	土屋禮一	昭和 60 年	90.9×90.9	
	18	興福寺の月	平山郁夫	平成 6 年	72.7×60.6	広島信用金庫蔵
	19	なごり雪（浅野川）	松村公嗣	平成 17 年	171.2×363.9	個人蔵
	20	天地（あめつち）	三輪晃久	平成 19 年	220.0×170.0	個人蔵
	21	夏気配	三輪晃久	平成 23 年	155.0×218.0	個人蔵
	22	春めく日	山崎啓次	平成 11 年	168.5×211.5	作者蔵
	23	夕陽	山本丘人	昭和 43 年	45.5×60.6	佐久市立近代美術館蔵
洋画	24	夏の日（切支丹の里 Ⅷ 黒島天主堂）	内山 孝	平成 24 年	162.1×130.3	
	25	雪晴れの朝（飛驒の 里）	黒澤信男	平成 17 年	162.0×227.3	作者蔵
	26	雪山	塗師祥一郎	平成 22 年	130.3×193.9	
	27	月明	塗師祥一郎	平成 17 年	193.9×97.0	神宮美術館蔵
	28	干拓（有明海）	三浦俊輔	昭和 55 年	91.0×72.8	佐久市立近代美術館蔵
工芸	29	重ね金象嵌香炉「朝 風ぎ」	浅井盛征	平成 18 年	縦 12.0 横 20.0 高 11.5	神宮徴古館蔵 （展覧会終了後献納）
	30	風景文七宝花瓶	伊藤勝一郎	平成 17 年	径 16.0 高 28.0	
	31	葦原の中つ国	伊藤裕司	平成 16 年	縦 170.0×横 130.0	個人蔵

工 芸	32	花瓶 朝の神路山	井上治男	昭和 47 年	口径 12.0 胴径 17.0 高 27.0	神宮徴古館蔵
	33	籃胎蒔醬 瀬戸内の 棚	太田 儔	昭和 53 年	縦 33.1 横 80.2 高 65.5	高松市美術館寄託
	34	草影	河合誓徳	平成 7 年	縦 32.2×横 42.0 ×高 21.5	神宮美術館蔵
	35	友禅訪問着「雪裡川」	田島比呂子	平成 19 年	丈 180.0×衿 68.0	シルク博物館寄託蔵
	36	映	並木恒延	平成 13 年	縦 162.1×横 112.1	
	37	友禅着物「草原の詩 (うた)」	萩原いづみ	平成 21 年	丈 174.2×衿 64.4	作者蔵
	38	友禅着物「山路」	山田 貢	平成 6 年	丈 178.0×衿 66.5	神宮美術館蔵

②特別展講演会

【会 場】神宮徴古館 2 階会議室

【講 師】日本美術院理事・愛知県立藝術大学学長 松村公嗣

【参加人数】125 名

③学芸員によるギャラリートーク

【会 場】神宮美術館展示室 I・II

【日 時】10 月 27 日（日）14 時～

【事業概要】美術館展示室にて学芸員による作品解説をしました

【参加人数】30 名

3. 特別展「 静—歌会始御題によせて— 」

【平成 26 年 2 月 19 日（水）～3 月 23 日（日）】

【会 場】神宮美術館 I・II

【事業概要】新春の歌会始は、和歌を通じて皇室と国民を一つに結ぶ、雅やかな宮中行事です。神宮美術館では毎年春の嘉例として、この「歌会始」の御題にちなんだ特別展を開催しています。19 回目にあたる今回は、「静—歌会始御題によせて—」と題して、静かな情景や心情を表現した作品、「静」をテーマとし

た作品など、日本の近現代の作家による日本画・洋画・書・彫刻・工芸の作品 42 点を展示しました。

【展示資料】

種別	番号	作 品 名	作者名	制作年	寸 法	所蔵者表示
日本画	1	幻想	伊藤小坡	昭和 5 年頃	195.8×109.3	猿田彦神社 伊藤小坡美術館蔵
	2	淡雪	梅原幸雄	平成 10 年	185.5×366.0	
	3	静心	岡田眞治	平成 21 年	225.0×180.0	今井美術館蔵
	4	青海	小野竹喬	昭和 2 年	68.1×87.2	笠岡市立竹喬美術館蔵
	5	琵琶湖春秋	小野竹喬	昭和 4 年頃	各 158.3×335.4	笠岡市立竹喬美術館蔵
	6	静かに流る	北野治男	平成 17 年	220.0×170.0	
	7	静日	郷倉和子	平成元年	151.6×303.8	富山県立近代美術館蔵
	8	静物	杉山 寧	昭和 28 年以前	47.0×61.0	神宮徴古館蔵
	9	静刻	武田修二郎	平成 22 年	162.0×227.0	
	10	静日	土屋禮一	平成 12 年	130.3×130.3	
	11	静寂	那波多目功一	平成 25 年	90.8×126.5	個人蔵
	12	祈り	西田俊英	平成 11 年	285.0×286.5	今井美術館蔵
	13	醍醐の桜 ～受け継がれし丘～	西田俊英	平成 22 年	90.0×180.0	個人蔵
	14	静まる刻	西田眞人	平成 10 年	162.0×225.0	明石市立文化博物館寄託
	15	絹垣渡御 (伊勢神宮遷御)	濱田台兒	平成 5 年	175.0×225.0	神宮美術館蔵

日本画	16	静映	東山魁夷	昭和 57 年	42.7×85.7	長野県信濃美術館蔵
	17	冬さぶ	松村公嗣	平成 15 年	93.0×119.0	今井美術館蔵
	18	遷宮を待つ（外宮）	水谷桑丘	平成 20 年	180.0×332.0	
	19	神磴（遷宮近き日）	水谷桑丘	平成 25 年	180.0×332.0	
	20	静韻	三輪晃久	平成 11 年	185.0×185.0	
	21	静響	山崎隆夫	平成 19 年	180.0×220.0	個人蔵
洋画	22	金閣寺 雪景	黒澤信男	平成 21 年	227.3×162.1	作者蔵
	23	コーヒー沸しのある静物	児島善三郎	昭和 28 年以前	42.5×50.5	神宮徴古館蔵
	24	水鏡	小灘一紀	平成 17 年	194.0×130.3	作者蔵
	25	静の光景	山本 貞	平成 18 年	162.1×259.1	作者蔵
	26	Sleeping Forest	山本大貴	平成 25 年	60.6×91.0	
	27	静	山本文彦	平成 6 年	37.5×27.4	サクラアートミュージアム蔵
書	28	萬象静	梅原清山	平成 21 年	96.3×141.0	神宮徴古館蔵 （展覧会終了後献納）
彫塑	29	韻	橋本堅太郎	平成 19 年	高 130.0×幅 34.0×奥行 30.0	神宮美術館蔵
陶芸	30	静寂	武腰敏昭	平成 13 年	縦 52.0×横 52.0×高 11.0	
染織	31	友禅訪問着「静寂の時」	羽田 登	平成 15 年	丈 173.0 衿 136.0	
染織	32	静寂	堀友三郎	平成 23 年	103.0×137.0	作者蔵
染織	33	友禅着物「静波」	森口華弘	昭和 37 年	丈 162.0 衿 131.0	
漆芸	34	籃胎蒔醬「波の棚」	太田 儔	昭和 54 年	縦 34.0×横 92.0×高 66.0	高松市美術館蔵
漆芸	35	乾漆朱塗盛器「静穏」	塩多淳次	平成 17 年	径 32.0×高 8.5	

漆芸	36	静寂	角 康二	平成 22 年	100.0×155.0	作者蔵
漆芸	37	深閑	並木恒延	平成 17 年	112.1×145.5	東京国立近代美術館蔵
金工	38	銀鉄香器「静寂」	井尾建二	平成 18 年	縦 25.5×横 32.0×高 13.0	作者蔵
金工	39	打出し香爐「雲海」	桂 盛仁	平成 11 年	縦 15.0×横 17.5×高 15.5	個人蔵
人形	40	静聴	小林幸子	平成 20 年	高 24.0	作者蔵
七宝	41	七宝箱「静韻に舞う」	栗根仁志	平成 23 年	縦 12.1×横 22.4×高 15.0	
ガラス	42	パート・ド・ヴェール 線刻文鉢「静影」	石田知史	平成 14 年	径 55.0×高 8.0	

②特別展講演会

- 【会 場】神宮徴古館 2 階会議室
【講 師】日本藝術院会員 山本貞
【参加人数】125 名

③学芸員によるギャラリートーク

- 【会 場】神宮美術館展示室Ⅰ・Ⅱ
【日 時】3 月 2・9・16・23 日(いずれも日曜日) 14 時～
【事業概要】美術館展示室にて学芸員による作品解説を実施。
【参加人数】72 名

- 4月2日 開館20周年記念特別展「日本の原風景」出品依頼作家 洋画家 小灘一紀氏来館。
- 4月11日 『るるぶお伊勢まいり』取材。
- 5月1日 写真家 宮澤正明氏来館。
- 5月5日 倭姫宮御杖代奉賛会主催「倭姫宮春の大祭」参列者362名来館（無料観覧）。
- 5月17日 日本藝術院会員 武腰敏昭氏、陶芸《無鉛黄金赤釉『王鳥』》献納（7月5日献納式）。
- 5月27日 重要無形文化財「友禅」保持者 二塚長生氏、染織《友禅着物「浜音」》献納式（平成23年12月24日献納）。
- 5月30日 日本藝術院会員 中井貞次氏、染織《桂林の月》献納式（平成24年3月22日献納）。
- 6月5日 重要無形文化財「撥鏤」保持者 故吉田文之氏令息 吉田秋比古氏、吉田文之《紅牙撥鏤尺》始13点献納式（平成24年11月13日献納）。
- 6月6日 奈良県立美術館 特別展「正倉院宝物と近代奈良の工芸—模造と創作140年の歩み—」に吉田文之《撥鏤嵌込合子》・《富士の図撥鏤嵌込香合》貸出（7月27日返却）。
- 6月11日 日本藝術院会員 故関主税氏令嬢 関悠美氏、日本画《湖畔》献納式（平成24年3月22日献納）。
- 6月21日 日本藝術院会員 川崎春彦氏、日本画《八大龍王図》献納。
- 6月24日 日本藝術院会員 山本文彦氏、洋画《呼ぶ》献納。
- 6月26日 三重県知事 鈴木英敬氏来館。
- 7月8日 「平成二十四年度神宮奉納美術品」展、記者内覧会、アイティビー並びに中日・読売・朝日・毎日の各新聞社取材（・9日 三重テレビ並びに産経・伊勢・伊勢志摩ホームニュースの各新聞社）。
- 7月9日 「平成二十四年度神宮奉納美術品」展開催（～8月25日 入館者3,146名）。
- 7月10日 文化勲章受章者 故杉岡華邨氏夫人 杉岡和子氏、杉岡華邨 書《千鳥》献納。
- 7月23日 日本藝術院会員 福王寺一彦氏、日本画《三日月》献納。
- 8月1日 三重県立博物館館長 布谷知夫氏来館。
- 8月3日 皇學館大学学生15名、博物館実習（～5日）。
- 8月12日 「平成二十五年度神宮実習」実習生31名来館（・19日36名・27日31名）。
- 8月16日 式年遷宮奉賛美術品献納者 故吉田文之氏令息 吉田秋比古氏来館。
- 8月19日 日本藝術院会員 山崎隆夫氏、日本画《澄爽》献納（平成26年3月17日献納式）。
- 9月13日 東京国立博物館 学芸研究部 竹内奈美子・酒井元樹の両氏、吉田文之 撥鏤《紅牙撥鏤尺》・隅谷正峯 金工《太刀》調査。
- 9月24日 遷宮特別態勢につき休館（～10月7日）。
- 9月30日 特別展「日本の原風景」記者内覧会開催、朝日・中日・毎日・読売各新聞社取材（・10月17日伊勢志摩経済新聞・25日 三重テレビ・11月1日月兎舎『NAG I』）。
- 10月7日 神宮美術館開館20周年記念特別展「日本の原風景」開催（～11月4日 入館者4,361名）。
- 10月14日 神宮祭主 池田厚子様ご来館。特別展 七宝《風景文七宝花瓶》出品作家 伊藤勝一郎氏来館。

- 10月20日 特別展 染織《友禅着物「草原の詩」》出品作家 萩原いづみ氏来館。
- 10月24日 特別展 洋画《「黄泉比良坂」古事記より》出品作家 小灘一紀氏来館。
- 10月25日 特別展 金工《重ね金象嵌香炉「朝風ぎ」》出品作家 浅井盛征氏来館。
- 10月26日 特別展記念講演会で「日本の四季と日本画」日本美術院理事・愛知県立芸術大学学長 松村公嗣氏講演（徴古館新館2階会議室）、出品作品 日本画《なごり雪（浅野川）》についてギャラリートーク（展示室Ⅰ）。
- 10月27日 学芸員による特別展ギャラリートーク開催。
- 10月28日 特別展 日本画《天地》・《夏気配》出品作家 三輪晃久氏並びに洋画《雪晴れの朝（飛驒の里）》出品作家 黒澤信男氏来館。
- 10月29日 特別展 漆芸《籃胎蒔醬「瀬戸内の棚」》出品作家 太田儔氏来館。
- 11月5日 展示替のため臨時休館（～8日）。
- 11月7日 日本藝術院会員 池口史子氏 洋画《たそがれ時》献納。
- 11月16日 式年遷宮奉賛美術品 染織《友禅額「鶴」》・《友禅着物「麗光」》献納者 故森口華弘氏 令息 森口雅文氏来館。
- 11月19日 新穀感謝祭各県神社庁来館（～12月12日 総数459名）。
- 11月28日 「第38回神宮美術館企画運営委員会」開催（グランドプリンスホテル高輪貴賓館）。
- 11月30日 富山秀男館長退任（平成14年9月1日就任）。
- 12月1日 館長に白石和己就任（四代）。
- 12月5日 重要無形文化財「白磁」保持者 前田昭博氏 陶芸《白瓷面取壺》献納（平成26年3月20日献納式、21日来館）。
- 12月11日 NHKプロモーション主催「生誕100年 佐藤太清展」に日本画《喜久》貸出。
- 12月12日 重要無形文化財「木工芸」保持者 川北良造氏、木工芸《槻造方圓器》献納。
- 12月13日 重要無形文化財「木工芸」保持者 灰外達夫氏、木工芸《神代杉挽曲造木象嵌食籠》献納。
- 12月19日 東京国立博物館「日本伝統工芸展六〇回記念 人間国宝展 生み出された美、伝えゆくわざ」に隅谷正峯 金工《太刀》・吉田文之 撥縷《紅牙撥縷尺》貸出（平成26年3月5日返却）。
- 12月28日 日本藝術院会員 井茂圭洞氏 書《秀鱗》献納（平成26年3月9日来館、10日献納式）。
- 1月3日 草津市21世紀文化芸術推進協議会 副会長 草津美術協会 事務局長 山元昭彦氏来館。
- 1月24日 神社本庁総合研究所主催「第76回正階基礎研修（甲）」受講者30名来館。
- 2月5日 重要無形文化財「蒔醬」保持者 山下義人氏、漆芸《明月蒔醬八稜箱》献納（27日来館、28日献納式）。
- 2月6日 神社本庁総合研究所主催「平成25年度神職養成機関普通課程生徒合同実習Ⅰ」受講者34名来館。
- 2月7日 宮内庁侍従 下均氏来館。
- 2月14日 降雪のため午後1時50分閉館。
- 2月15日 積雪のため臨時休館。
- 2月18日 特別展開催に伴う展示替のため臨時休館。特別展「静」記者内覧会開催、毎日・中日・

読売・伊勢の各新聞社取材（・19日 NHK・三重テレビ）。

- 2月19日 特別展「静一歌会始御題によせて一」開催（～3月23日 入館者4,674名）。宮内庁前掌典長 手塚英臣氏来館。特別展 日本画《遷宮を待つ（外宮）》・《神燈（遷宮近き日）》出品作家 水谷桑丘氏来館（・22日・3月13日・19日）。
- 2月23日 学芸員による特別展展示作品説明会（・3月2日・9日・16日）。特別展 洋画《静》出品作家 日本藝術院会員 山本文彦氏来館。
- 3月1日 （公社）日本工芸会理事長 吉田茂氏、神宮美術館企画運営委員会委員に就任。
- 3月5日 特別展 洋画《水鏡》出品作家 小灘一紀氏来館。
- 3月6日 重要無形文化財「竹工芸」保持者 藤沼昇氏、竹工芸《白錆束編花籃「白蓮」》献納。
- 3月8日 特別展記念講演会で「幼い日の夢の話」日本藝術院会員 山本貞氏講演（徴古館新館2階会議室）、出品作品 洋画《静の光景》についてギャラリートーク（展示室Ⅱ）。特別展 漆芸《深閑》出品作家 並木恒延氏来館。日本藝術院会員 神戸峰男氏来館。
- 3月12日 特別展 日本画《静刻》出品作家 武田修二郎氏来館。西濃書人社 日展会友 主宰 萩野展山氏来館。
- 3月15日 特別展 金工《打出し香爐「雲海」》出品作家 桂盛仁氏来館。
- 3月16日 特別展 日本画《静響》出品作家 日本藝術院会員 山崎隆夫氏来館。
- 3月18日 第39回神宮美術館企画運営委員会開催（グランドプリンスホテル高輪 貴賓館）。特別展 七宝《静韻に舞う》出品作家 栗根仁志氏来館。遷宮記録絵画作家 水野一昭氏来館。
- 3月19日 特別展 日本画《静まる刻》出品作家 西田真人氏来館。
- 3月20日 神宮美術館企画運営委員会 安嶋彌委員退任(平成14年7月1日就任)。特別展 洋画《金閣寺 雪景》出品作家 黒澤信男氏来館。神道青年近畿地区連絡協議会 40名来館。
- 3月22日 特別展 日本画《静韻》出品作家 三輪晃久氏来館。
- 3月23日 特別展 友禅訪問着《静寂の時》出品作家 羽田登氏来館。「平成25年度大阪府神社庁ボーイスカウト神道章講習会」受講者15名来館。
- 3月25日 特別展終了に伴う展示替のため臨時休館。
- 3月28日 株式会社百五銀行 代表取締役 頭取 上田豪氏来館。

平成 25 年度せんぐう館事業報告

○企画活動

1. 企画展示「御白石持行事」【4 月 24 日（水）～7 月 22 日（月）】

【会 場】 外宮域内・せんぐう館展示室 8

【事業概要】 御白石持行事は、神宮式年遷宮で新しく御殿が建てられた御敷地に神宮の旧神領地に住む人々（旧神領民）が白色の敷石を奉献する行事で、昭和 48 年に伊勢市の無形民俗文化財「伊勢の白石持ち行事」に指定されました。本企画では遷宮をテーマに、遷宮行事の中で旧神領民が主体的に奉仕する御白石持行事を採り上げて、街の活性化と遷御が近づいた式年遷宮についての一層の広報周知を行いました。

①企画展示

【展示資料】 『御白石奉献資料』『揃衣裳の価格』 昭和時代 神宮徴古館蔵

『御白石奉献資料』『御白石外宮奉献に就て』 昭和時代 神宮徴古館蔵

『明治四十二年神宮遷宮史』 明治時代 神宮徴古館蔵

「白石持行事絵葉書」 明治時代～昭和時代 神宮徴古館蔵

「御白石運搬用天秤棒・竹籠」 近代 神宮徴古館蔵

「御白石持行事法被」 現代 神宮徴古館蔵

御白石持行事関連写真パネル 現代 神宮司廳蔵



②ガイド「神宮と白石」

【日 時】 4 月 27 日、5 月 4・11・18 日、6 月 1・8・15・29 日、7 月 6・13・20 日

（いずれも土曜）10 時 30 分～

③講座「御白石持行事とは」

【事業概要】 せんぐう館企画展示室での展示解説と域内参拝を通して、正殿へ白石を敷くことの意義と、御白石持行事が持つ意味について理解を深める機会としました。

【講 師】 学芸員 長谷川明輝

【日 時】 5 月 25 日（土）、6 月 22 日（土） 10 時～

【参加人数】 20 名



2. 企画展示「神明造」【7月24日（水）～9月23日（月）】

【会 場】 せんぐう館展示室 8

【事業概要】 社殿造営は、神宮式年遷宮の基本的な営みのひとつです。神宮の社殿は古代からの木造建築の技術を駆使して建てられています。わが国独特の神社建築である「神明造」の様式を伝えている造営について詳しく紹介する当館の展示を、より深くご理解いただくため昨年に引き続き企画しました。

①企画展示

【事業概要】 ①葺祭・檐付祭の祭典と萱葺屋根の工程を写真パネルで紹介。

②造営に関わる戦前の記録写真から、絶え間なく続けられている祭で培われた伝統的な木造建築技術の粋と、これを支える森林管理の営みを展示

【展示資料】 神棚（板葺大）

写真パネル（全 15 点）

「皇大神宮檐付祭・葺祭」写真パネル

「内宮の造営作業（萱葺・飾金物取付工事の様子）」写真パネル

「神明造構造図」「内宮と外宮の違い（飾金物の取付）」イラストパネル

「大正年間の宮域林と作業の記録写真」パネル



②ガイド「匠のギャラリートーク」

【事業概要】 造営作業に従事している職員（萱工）を講師として、正殿原寸大模型を活用しながら仕事や心がけについて話していただきました。

【講 師】 萱工 田中正光氏

【日 時】 ①8月16日（金）15時30分～16時 ②9月13日（金）15時30分～16時

【参加人数】 ①20名 ②30名



③ガイド「わざの言葉あそび—くむ・あむ—」

【事業概要】 せんぐう館のガイドをより親しみやすく興味を持っていただくために企画。「住まい」「編み物」に関する言葉を用いたことわざや慣用句を紹介して国語や古い習慣に親しむとともに、社殿造営に用いられる技術や道具への理解を促しました。

【日 時】 8月3・10・17日、9月7・21日(いずれも土曜)10時



3. 企画展示「参宮みやげ—神宮に寄せる思い—」

【9月25日(水)～12月23日(月)】

【会 場】 せんぐう館展示室8

【事業概要】 企画展示のテーマ「地域活性」・「心」に即した展示で、式年遷宮を契機とした多くの参拝者の為に作られた参宮土産や遷宮記念品を紹介しました。資料は「伊勢の工芸」から陶芸として神路山焼・五十鈴焼・二見焼。木工として朝熊黄楊の伊勢根付や木彫。漆工として桑名盆・擬革紙などを展示。参宮土産・遷宮記念品を通じて、神宮に寄せられる思いを知る機会とし、併せて神宮を中心とする文化を紹介して、外宮周辺発展に寄与することを目的としました。

①展示資料

資料名	製作年代	作者	所蔵先
岩戸茶碗	明治		神宮徴古館蔵
間の山振舞茶碗	明治		神宮徴古館蔵
伊勢春慶箱	昭和3年		個人蔵
伊勢根付草履に蝦蟇	明治	鈴木正直	神宮徴古館蔵
釣瓶に蝦蟇	昭和	三宅正直	神宮徴古館蔵
擬革紙煙草入	江戸	三忠	個人蔵
擬革紙紙巻煙草入	大正	三忠	個人蔵
擬革紙巾着	現代	擬革紙の会	擬革紙の会蔵

擬革紙煙草入	現代	堀木茂	個人蔵
擬革紙名刺入	現代	堀木茂	個人蔵
神路山焼岩戸茶碗	昭和	神山一三	神宮徴古館
神路山焼剣先祓小碗	昭和	神山一三	個人蔵
神路山焼鳥居に神鶏徳利	昭和	神山一三	個人蔵
神路山焼茶碗「神風」	昭和	即中斎 書 神山一三 作	個人蔵
神宮窯暦手茶碗	昭和	今村仙風	神宮徴古館蔵
御絵付茶碗	昭和	北白川房子祭主 絵付 今村仙風 作	神宮徴古館蔵
「大祓詞」鉄筆竹柱掛	昭和 32 年	今村仙風 刻	倭姫宮蔵
五十鈴焼焼締水指	昭和	森下木二	神宮徴古館蔵
五十鈴焼水碗形茶碗	大正 7 年	竹内栖鳳 元絵 森下木二 作	個人蔵
二見焼神宮古印釣瓶花入	昭和	清水石仙	個人蔵
宇治橋擬宝珠香合	昭和	坂口晴風 刻	個人蔵
宇治橋古材茶器「五十鈴川」	昭和	坂口晴風 刻	個人蔵
桑名薄盆	現代	6 代山本翠松	せんぐう館蔵
イジイジ塗桑名薄盆	現代	6 代山本翠松	せんぐう館蔵



②展示解説（毎週土曜日、午前 10 時 30 分）※10 月 5 日は除く



③PDF 版図録の作製

4. 企画展「皆押しあひぬ御遷宮」

【12 月 25 日（水）～平成 26 年 3 月 24 日（月）】

【会 場】 せんぐう館展示室 8

【事業概要】 遷宮と参宮について、芭蕉の感慨に思いを馳せながら、遷宮を契機として、いつの世も変わりなく繰り返される伊勢参宮の盛況について紹介。また、国の内外著名人による伊勢参宮の印象記等も紹介することで伊勢参宮の今と全国および世界から寄せられる神宮への思いを体感いただき、日本人の祈りと心について広く知って頂く機会でした。

①展示資料

芭蕉の句バナー「尊さに皆押しあひぬ御遷宮」

伊勢両宮曼荼羅（複製パネル）

文政度御蔭群参之図（複製パネル）

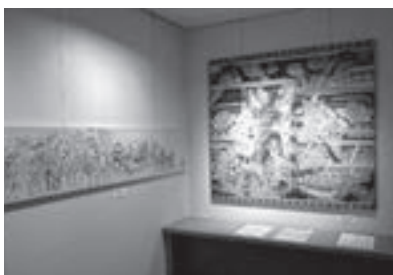
参宮者数年表（パネル）

外宮内宮宮中之図（『伊勢参宮名所図会』パネル）

外国人の見た伊勢参宮（パネル）

世界の著名人参拝印象記（パネル）

『神風帖』 「人」 第三卷（アーノルド・J・トインビーの記帳）



②展示解説

常時 10 分程度のガイドを実施。

時間 10:30、11:30、13:30、14:30

③ガイド「お伊勢参りと遷宮」

【内 容】 「お伊勢参りと遷宮」について展示室での解説。

【時 間】 10 分間のガイドに切り替え

【人 数】 10 名

④ガイド「絵図で巡る外宮参拝」

【内 容】 江戸時代の絵図（伊勢参宮名所図会）を参考に講座と域内の参拝案内。参拝印象記の作成。

【時 間】 10:00～11:00(40 分)

【人 数】 10 名

【開 催 数】 全 24 回

【総参加数】 119 名



⑤ガイド「伊勢参詣曼荼羅を読み解く」

【内 容】 展示室で「伊勢参詣曼荼羅」の絵解き解説。

【時 間】 10:00～10:40(40 分)

【人 数】 10 名

【開 催 数】 全 4 回

【総参加数】 30 名



⑥ガイド「外国人の見た、神宮・遷宮」

【内 容】 神宮に参拝した内外著名人の印象記等を紹介し、展示解説と域内の参拝案内と参拝印象記の作成。

【時 間】 10:00～11:00(40 分)

【人 数】 10 名程度

【開 催 数】 全 7 回

【総参加数】 35 名



⑦外宮参拝の印象記作成

【内 容】 企画④と企画⑥において参加の皆様に参加の印象記を作成いただきました。

【参拝印象記】 全 154 名（130 ページに別掲）



5. その他

①三好和義写真展示

【内 容】 写真家・三好和義氏より写真 15 点の献納がありましたので、展示室 7 にて展示しました。

【作 品 名】 『聖なる杜へ』（額装・縦 65.0 センチ×横 95.0 センチ）

【期 間】 平成 25 年 10 月 28 日（月）～継続中



②三条小学校壁新聞の掲示

【内 容】 新潟県三条市立三条小学校より、造営で使用される和釘を調べた壁新聞の提供がありましたので、催事室にて展示しました。

【期 間】 平成 25 年 12 月 1 日（日）～平成 26 年 1 月 9 日（木）

【備 考】 壁新聞の展示にあたり、その努力を称えてせんぐう館館長より表彰状を贈呈しました。



○通年

1. 常設展の展示替事業

【対 象】 展示室 3・4「永遠の匠たち—御装束神宝の調製—」

【公 開 日】 平成 25 年 5 月 29 日（水）

※展示替は 26 日（日）閉館後～28 日（火）に実施

【展示品目】 鶴斑毛御彫馬、唐組平緒、纈纈帛の各調製工程品
染織資料、神宝パネル

【趣 旨】 展示室 3 は従来の「玉纏御太刀調製工程品」と同じく古来の工芸技術を総合的に駆使する彫馬の展示としました。
展示室 4 は従来の金工・漆工技術から、今日神宮式年遷宮でのみ特に伝わる品目を中心とした染織技術の分野に替えました。
全ての工程品は、御装束神宝の調製に用いられるわが国の伝統工芸の主な技法を通観することを目的に展示しました。

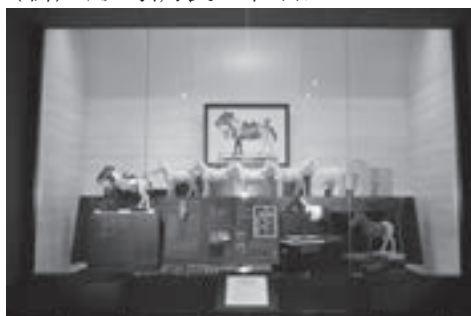
【参考図版】

〈展示室 3〉

（旧）玉纏御太刀



（新）彫馬調製工程品



（旧）展示パネル



（新）展示パネル



〈展示室 4〉

（旧）御鏡



（新）唐組平緒



(旧) 轆轤箱



(新) 纈纈帛



(旧) 展示室 4 全体



(新) 織物見本および全体



2. 館内ガイド

【事業概要】 職員による館内展示ガイドを常時 1 日 6 回（午前 10 時・午前 11 時・正午・午後 1 時・午後 2 時・午後 3 時）正殿原寸大模型前で展示ガイドを開催しました（各 10 分程度）。

1 日 6 開催で合計 120 名程度利用があり、1 年間毎日開催しておりましたので、およそ 40,000 名の来館者にご参加いただきました。



3. 遷宮諸祭の奉拝

【会 場】 外宮域内・せんぐう館展示室

【事業概要】 平成 25 年度に斎行された杵築祭を参道から奉拝し、その後館内のガイドを行いました。

【日 時】 9 月 29 日(日)9 時～12 時

【参加人数】 28 名

4. 三節祭の奉拝

【会 場】 外宮域内・せんぐう館展示室

【事業概要】 館内ガイドで神宮のおまつり、とりわけ三節祭の意義について紹介し、その後域内のガイド、三節祭の奉幣の儀を板垣内から奉拝しました。

① 月次祭（外宮）

【日 時】 6 月 16 日(日)10 時 30 分～12 時

【参加人数】 15 名

② 神嘗祭（外宮）

【日 時】 10 月 16 日(水)10 時 30 分～12 時

【参加人数】 10 名

③ 月次祭（外宮）

【日 時】 12 月 16 日(月)10 時 30 分～12 時

【参加人数】 10 名

